学校だより

平成29年5月26日

６月号

横浜市立あざみ野第一小学校

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/azamino1/　　０４５－９０２－７１５１

大人の姿に学ぶ

副校長　　鈴木　智彦

さわやかな季節になりました。校庭で体育をしたり、観察をしたりしている子どもたちの元気な様子や笑い声が風に乗って、職員室まで伝わってきます。

この季節は、登校中の子どもたちにとって、いろいろな発見の時期でもあります。先日も、学校の周りをまわっていると低学年の子どもたちが数人集まって地面を覗き込んでいました。「どうしたの？」と声をかけると「ナナホシテントウ！」と嬉しそうに教えてくれました。「きれいな花が咲いている！」と教えてくれることもあります。緑が深まり、植物が育っていくこの時期の変化に、子どもたちは確かに気付いています。

もう一つ、子どもたちに気付いてほしい変化があります。

朝、カラスがごみ置き場をあさり、こぼれたゴミがまわりに散乱している光景をよく見かけます。路上に、たばこの吸い殻やお菓子の袋等が落ちていることもあります。落としてしまったのか、アクセサリーが転がっていることもあります。でも、**いつまでもそのままではありません。**いつの間にかきれいになったり、はじにそっと置かれていたりしています。その変化の裏には、「片づけたり、関わってくださった方々」がいます。

あざみ野四丁目南公園（もぐら公園）でも、毎朝、ゴミ拾いをしてくださっている方がいらっしゃいます。その方に「どうして、毎朝、ゴミ拾いをしてくださるんですか？」と聞いてみました。その方はこう答えました。「子どもたちが遊び、みんなが使う場所だから、きれいにしたい。それに、きれいになると**自分も気持ちがいい。**」と。

どんなことでも、一方通行では長続きしません。自分にとっての価値があって、初めて主体的な取組になるのでしょう。この方は、朝の公園に関わることで、「まちに関わっている自分」を感じ、だからこそ、毎朝、続けて取り組んでくださっているのでしょう。とても素敵な「まちとの関わり方」だと思いました。こういった大人の姿を見て、子どもたちは学んでいきます。この地域には、たくさんの素敵な「まちとの関わり方」をしている方がいらっしゃいます。そういった方々との出会いを大事にし、子どもたちを育てていきたいと考えております。